

3 分析・考察

① 保護者アンケートより

- ・お子さんが喜んで登園しているとの回答は 65%と低く、そうでない園児の数が 8%とやや高い数値が見られる。
- ・基本的な生活習慣の定着に向けた取り組みは保護者から評価されているが、園児の実態には反映されていない。家庭での取り組み方について、保護者に対してどのような働きかけをしていくのが課題。
- ・行事の持ち方を工夫し保護者の参加を促しているが、保護者から評価では参加しづらさを感じている様子が伺える。

② 自己評価から

- ・「教育課程・指導」に関して、もう少し努力を要するの項目が多かった。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の活用方法や、絵本以外の教材、楽器などを計画的に活用することが課題。
- ・「保健・安全」はマニュアル等も整備し、適切な対応をとることが出来ているが、職員間での迅速かつ正確な情報共有が求められる。
- ・研修に関しては園内研修等を計画通りに行う事は出来たが、その内容については見直しが必要。
- ・地域との連携に関しては、コロナ禍の影響で地域の行事等への参加が難しかった。

③ 生活リズム・生活習慣

- ・「げんキッズカード」などを活用し、個人面談等で保護者とも生活リズムについて情報を共有し、基本的な生活習慣の定着を図ったが、保護者アンケートからは定着している様子はいかかかえず、一時的な成果にとどまっている。
- ・家庭でも取り組んでいる手洗いやマスク着用などの感染症予防に関する生活習慣は、定着している姿が見られる。

④ 学校関係者評価（評議員、学校関係者意見）

・

4 改善方針・改善策

① 基本的な生活習慣の定着

- ・基本的な生活習慣については今までの取り組みを継続しつつ、家庭での過ごし方、降園後の外出のルールなどの相談やアドバイス等、個人面談やクラス懇談会を活用し定着を目指す。
- ・感染症予防に関する生活習慣については、コロナ禍が明けても継続しつつ、状況に応じて改善を行っていく。

② 規範意識の育成

- ・共通の幼児理解を基に、丁寧な言葉使い、名前にさん付けを定着させていくなど、一人ひとりを大切にしたい関わり方を心掛け、温かな人間関係を築いていく。
- ・集団生活でのルールやマナーがあることを知らせ、相手の思いを受け入れつつ、自分の思いも安心して伝えられるような機会を持てるようにする。

③ 話を聞き、話す意欲や態度の育成

- ・朝の会、帰りの会、全体集会、読み聞かせなど様々な場面で話を最後まで聞く態度を育てる。
- ・園児が聞きたくなるような話し方を心掛け、心を揺さぶるような保育をめざしていく。

④ 家庭との連携の強化

- ・保育参加や保育参観など、コロナ禍で行う事が難しかった行事等も、開催方法を保護者が参加しやすいように工夫し、情報共有の場と時間を確保することで、保護者との連携を強化していく。
- ・地域の行事やPTA活動などにも積極的に参加することで、地域に根差したこども園を目指す。